

◆ 中山道を通ったラクダ



ラクダ図(昼飯村文書5) 岐阜県歴史資料館所蔵

昼飯村文書に残された2枚の絵図に描かれているラクダは、文政4年(1821)にオランダ船によって長崎にやってきた、ペルシャ産ヒトコブラクダのオス・メスの2頭です。渡来の目的は、幕府への献上用といわれていますが、幕府側が受け入れを拒否したため、後に大坂商人の手に渡り、日本全国を興行目的に旅することとなりました。

ラクダの興行は現在分かる限り、下の表のような軌跡をたどりました。少なくとも文政6年(1823)から天保4年(1833)の11年間に渡って全国を旅したこと

になります。昼飯村には、文政7年(1824)にやってきたと思われます。中山道伏見宿(現在の御嵩町)の記録によると、伏見宿には同年8月6日から3日間滞在したようで、見物人でにぎわったとされます。この2枚の絵は、昼飯村文書に残されていたものです。上の絵図は手書きで書かれたものです。下の絵図は、大坂の玉屋源次郎が刊行した木版画で、このような刷り物や書物が多数出版され、各地でラクダが好評を博しました。



紅毛来船駱駝(昼飯村文書120) 岐阜県歴史資料館所蔵

年代	ラクダの興行場所
文政6年(1823)	九州・四国で見世物
同年 7月12日～	大坂難波新地で見世物
同年 9月19日～	上京四条道場で見世物
同年	奈良へ
文政7年(1824)春	南紀で興行
同年 夏	昼飯村通過(推定)
同年 8月6～8日	中山道伏見宿に滞在
同年 9月8日	板橋に着
同年 9月8日	江戸に到着
同年 9月8日	両国広小路で見世物
同年 9月8日	紀州藩主、江戸で見学
文政8年(1825)春	東国・越前・加賀を巡業
文政9年(1826)	岐阜

年代	ラクダの興行場所
文政9年(1826)11月	一宮
同年 11月11日	尾張大須で見世物
同年 冬	岡崎
文政10年(1827)春	津島
同年 1月9日～	尾張大須で再興行
同年	伊勢
同年 4月	岩国(山口県)で見世物
同年 5月	大坂難波で見世物
天保4年(1833)春末	江戸両国広小路で見世物
同年 5月3日～	信州飯田の東照寺で見世物
同年 6月1日	甲州路経由で江戸へ出立
同年 8月	江戸市谷八幡で見世物

(名古屋市博物館資料叢書3 猿猴庵の本『絵本駱駝具誌』を参考に作成)